

しょうがはた

尉ヶ畑環境保全組合（京都府京丹後市）

- 絶滅危惧Ⅱ種で日本固有の魚類であるアカザが生息する自然環境豊かな水路は、本地域の水源として最も重要な役割を担っている。
- 本組織では、農道の草刈り、水路や田んぼの生きもの調査、農道の舗装（自主施工）等の取り組みや、老朽化した水路の補修等を実施している。
- また、高度な農地・水の保全活動として、地域住民の自主施工による石積み護岸水路の整備を行い、アカザやその他の生きものが棲みやすい環境保全活動に取り組んでいる。

【地区概要】

- ・取組面積 18ha（田18ha）
- ・資源量
開水路 17km、農道 6km
- ・主な構成員
農業者、自治会、ふるさと会、
若尉会、婦人会、老人会、子供会
- ・交付金 約2百万円（H26）
〔 農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化） 〕

水辺の生きもの調査



集落の子ども達による生き物調査



アカザ



カワムツ



ドジョウ



サワガニ

たくさんの生きものを発見！

自主施工による高度な
農地・水の保全活動

○工事着手前の状況



大雨による増水で、水路の生き物は河川に流下する。また、水路に隣接する農道法面も雨の度に洗掘されていた

○自主施工の風景



近隣国道の拡幅工事で発生した石を石積護岸水路の材料として使用

○完成した石積護岸水路



5カ年で107mを施工予定

課題および今後の展開

○絶滅危惧Ⅱ種のアカザなどが急流で河川に流れ込まないように、ワンドの設置を計画



ワンド予定地

○今後は集落の憩いの場や子ども達の生き物観察の場としての活用を計画中



山室保全会（滋賀県米原市）

- ラン科の多年草であるサギソウ等の希少性の高い植物を有する山室湿原は、農業用水の水源としても重要な役割を果たしている。
- 自治会が母体となり、平成24年度に山室保全会を設立。地域の草刈や泥上げ等の共同活動のほか、高度な農地・水の保全活動として、
 - ・琵琶湖の水質保全に資する循環かんがい施設の保全等
 - ・山室湿原における管理・観測用の歩道(木道)の補修を実施した。

【地区概要】

- ・取組面積 29.0ha
(田 28.9ha、畑 0.1ha)
- ・資源量 水路 7.7km、農道 4.4km、
ため池 2箇所
- ・主な構成員
農業者、自治会、老人会、婦人会
- ・交付金 約1百万円(H26)
〔 農地維持支払
資源向上支払(共同) 〕

木道の補修

現状

- ・地域住民の生活の変容により、湿地の利用が減少し、人的管理が行き届かなくなったことから、湿地の陸地化が進行している。

- ・管理用の木道は、湿原の生態系への配慮から防腐剤を使用していないため、劣化が早く、補修等の保全管理が課題となっている。

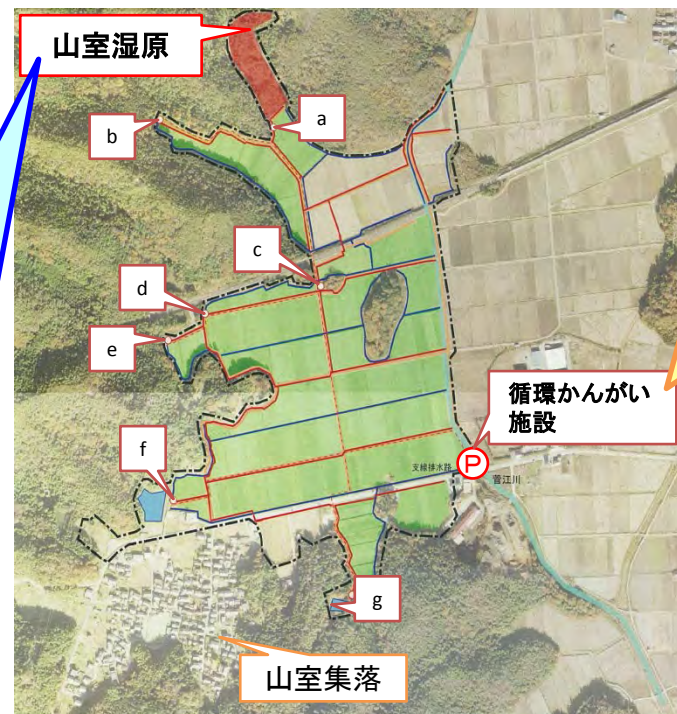


劣化の進行した木道

高度な農地・水の保全活動による
木道の補修

補修状況

山室湿原



循環かんがい施設の保全

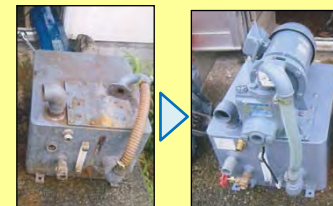
現状

- ・昭和60年頃のほ場整備によりポンプ場を設置した。
- ・排水を揚水機場(Ⓟ)からa~g地点までポンプアップし、循環かんがいを実施している。
- ・農業管理組合により管理していたが、高齢化等の進行により吸水槽の土砂上げ等に苦慮している。

高度な農地・水の保全活動による
循環かんがい施設の保全

循環かんがい施設内部

真空ポンプの更新



取組における課題および今後の展開

- ・山室湿原の管理で年3回の伐採を実施しているが、伐採後に発生する残材の処分が課題となっている。
- ・地域資源の保全管理を恒久的な活動としてくため、より参加しやすい環境づくりが必要と感じている。将来的には、山室湿原の保全を通して、サギソウの村として地域活性化を図りたい。